

EDELWEISS

紅葉

♪あ〜きの夕日に、照る〜山もみ〜じ♪
今年も紅葉の季節になりました。

「夏の日焼けもまだ抜けていないのに、秋色が似合うかしら」なんて心配も、自然の中では無用です。さあ、みんなでお散歩、ピクニック、ウォーキング、トレッキング、登山、それぞれのレベルに合わせて、スイスの自然を楽しみに出かけましょう！

「秋ってセンチメンタル」なんて、スイスではそんな事言ってる暇がない！ だって、すぐに寒くなって、霧が発生しますから、10月はアウトドアシーズンの締め括りとしてしっかり楽しまないと！来る冬に向けて、筋肉も気持ちも鍛えておきたいものです。

山や森では、鹿にも会えるかも知れない！

以前、朝のジョギング中に鹿を見かけた時の神々しさは、10年以上経った今でも忘れられません。暫く見つめ合った後、その鹿は音もなく森の中に消えてしまいました。この時期1人で森に行くと、そんな幸運にも巡り会えそうです。

そうかと思えば、ふと目を上げれば葡萄畑が見渡せる窓辺の机でこれを書いているのですが、引越して来てすぐ、その葡萄畑に鹿が出没！写真を撮ろうとズームを絞ると、脇腹に噛まれたような傷が...。あの鹿はちゃんと森に帰れただろうか...、本当にスイスって自然と隣り合わせに生きているんだなあ実感しました。

「わざわざ森に行く暇などない！」という方も、一手前の停留所で降りるなどして、衣替えしていく木々を愛でてみて下さい。それだけでも自然の力を実感される事でしょう。1週間に2度、20分間独りでウォーキングすると瞑想作用があるそうです。お試しあれ！(SN)



©Yuko Kamata Photography

HERBSTBLÄTTER

食の秋、ラーメン屋で親睦会

秋祭やお月見、スイスでは日本のお祭りが恋しくなるけれど、そんな郷愁を吹き飛ばせる美味しいラーメン屋さんで親睦会を開きます。人数が限られていますので、P7の「事務局からのお知らせ」をご覧の上、お早めにお申し込み下さい。熱いラーメンをフーフー言いながら食べたら、元気に冬へ突入できそう！その他、今月も様々なイベントが目白押しです。どこで皆様に見えるかな？



©Yuko Kamata Photography

巻頭文

「子供の自殺問題を考える」 青砥 玄 (会長)

私のイチオシ、シェアします! Vol.38

Gotthard峠 阿部 公一

Hoi Zäme ホイツァメ Vol.13

「一つのチャプターの終わり」長坂 道子

美のプリズム Vol.21

「ひとつの響きから」 柿沼 万里江

Kette(会員の輪) Vol.171

岡本 和孝さん (デューベンドルフ在住)

巻頭文 「子供の自殺問題を考える」 青砥 玄 (会長)

厚生労働省がこのほど、2022年の1年間で自殺した児童生徒数が514人と発表しました。専門学校・大学生を入れると874人が自らの命を絶っています。ところが、この数字は遺書があり自殺と警察が断定した数だけであり、遺書などが無い場合は、原因不明の死扱いと統計上は処理されますので、実際の自殺者数はもっと多いといわれています。実は、日本の子供達の死因の一番が、自殺なのです。40代くらいまでは自殺が一番多く、それ以降はガンが多くなっています。ガンは病気ですが、自殺は自分で自分を殺めてしまうわけですので、極めて深刻な問題といえます。

「日本の病を治す！」をモットーに銀座で医療活動をされている吉野敏明医師が、ネット番組でその点を語っておられました。吉野氏のクリニックには、生きる希望がなく自殺未遂を繰り返すお子さんとそのご両親が、たくさん相談に来られるそうです。吉野氏は言います。「私のところに来る、自殺未遂をしたり生きる希望がないと言っている子供達に、共通している重要なキーワードがあります。それは“なんとなく”です。なんとなく生きていたくないと子供たちは言うのです。そこで、「どうしてなんとなく生きていたくないんですか？」と聞くと、「だってどうせ人間最後は死んじゃうでしょ。そしたら何で面白くもないのにわざわざこのゲームをやっている必要がいないの？」と言うんです。すなわち生きる目的や理由がないからなんです。何の為に生まれたのかということが分かっていないからなんです。」

この話を聞いて私は、幼い魂が根無し草のように漂流してしまっている悲しい現実にショックを受けました。何とかして、この子供たちに生きる希望を持ってもらいたい。幸せな人生、明るい未来を体験させてあげたい。それこそ私達大人の責任だと思うのです。それで、なぜこのような問題が生じてきたのでしょうか。

戦前の学校教育・修身

戦前までは、学校教育で「読み・書き・そろばん」に加えて「道徳と修身」という授業がありました。修身の教科書には吉田松陰をはじめ西郷隆盛、二宮尊徳、宮沢賢治、聖徳太子、ナイチンゲール、米田初代大統領ワシントンなど、古今東西の偉人の話が載っていました。それら人物のエピソードを通して、正直、勤勉、正義、公益などの徳目を教えていました。具体的に、修身の教科で教えられたのは次の様な内容でした。

「家庭のしつけ」「親孝行」「家族・家庭」「勤労・努力」「勉学・研究」「創意・工夫」「公益・奉仕」「博愛・慈善」「資質・儉約」「責任・職分」「友情」「信義・誠実」「師弟反省」「正直・至誠」「克己・節制」「謝恩」「健康・養生」「愛国心」「人物・人格」「公衆道徳」「国旗と国家」「国際協調」などです。修身の教科書の最初に掲載されていたのが教育勅語ですが、それにより「教育の目的」が明確化されていました。「国民として」「人としての道」、を、家族から友人、社会、国家という広がりの中で具体的に示しました。その内容は12の徳目で、現代語に訳すと以下の通りです。

1. 親や先祖を大切にしましょう。
2. 兄弟仲良くしましょう。
3. 夫婦はいつまでも仲むつまじくしましょう。
4. 友達はお互いに信じあいましょう。
5. 自分の言動を慎みましょう。
6. 広くすべての人に愛の手をさしのべましょう。
7. 勉強はげみ技能を身につけましょう。
8. 知徳を養い才能を伸ばしましょう。
9. 人格の向上につとめましょう。
10. 広く世の人々や社会のためにつくしましょう。
11. 規則に従い社会の秩序を守りましょう。
12. 勇気をもって世のためにつくしましょう。

最初の3つが個人の人間の基礎を作り、良き家庭を営むうえで極めて重要な点です。

これらの教育は、明治・大正・昭和を通じて長い間、日本人の精神形成の中心的な役割を担ってきました。教育勅語と聞いただけで、戦後生まれの私達には一見古めかしいもの、時代遅れといった感覚がありますが、深く読み返してみると極めて真つ当な内容であり、全てが腑に落ちる内容です。かつてはこのような公教育を通して、良き日本人を育ててきたわけですから。その良き日本人とは徳のある人、即ち「自分の能力を自分以外の人の為に使える人」「世の為、人の為に生きる人」であったわけですから。

悠久の日本の歴史を通して、日本人が持つ伝統的な精神を「大和心」と表現してきました。古くは源氏物語にその記載があり、中国から入ってきた漢才との対比として記載されています。歴史学者の田中英道氏は、彼の著作「やまとごころ」とは何か―日本文化の深層―の中で縄文文化まで遡り、「日本には祖先の御霊信仰を基礎に、自然信仰など様々な要素で形作られる総合的な宗教観、すなわち伝統的な「やまとごころ」が確固として存在する」と語られています。平安時代の大和心は「情緒を理解する心」と理解されていました。これは現代の私達にとっても必要な点ではないかと私は思います。

私達一人一人の命には終わりがあるけれども、心、精神はつながっていて、大和心という精神は様々な歴史に翻弄されながらも、世代を超えて継承されてきた大切なものだと思います。

戦後教育の弊害

戦後、日本人の精神教育の根幹であり、必要条件的存在としての道徳や修身は教育から撤廃され、同時に十分条件的存在としての「読み書きそろばん＝国語算数理科社会」の方を主に教育するという方向に変更されました。本来、双方は相互補完なのですが、人間の外面の教育が強調され、内面の教育がなおざりにされるようになってしまいました。そのため、良い成績を収めた者が、良い大学に入るといった評価基準が作られました。同時にあまりにも個人主義が奨励された結果、勉強は出来るが自分さえ良ければ良いという輩が成功者になるというルールが変わってしまいました。結果的に「将来の我々の子孫の為に自分達が努力して良い国にしてゆこう」といった考え方は喪失してしまいました。この勝ちゲームから落ちこぼれた人達は、何のために生きているのかわからない。偏差値を上げ

るというルールが面白くなく興味が持てない子供達は、全くやる気が出ないのです。勉強が嫌いになった時点で、何のために学校に行っているのか意味が分からなくなってしまふ。それにより大量数の不登校でやる気の無い子供たちが生まれ、生きる気力までも失ってしまふ。上述の吉野医師の元に相談に来た子供たちの「何となく生きているのが嫌になったから」という言葉にはそういう背景があるのではないのでしょうか。両親は子供から「じゃあ、お父さん、僕は何のために生きているの？」と聞かれた時に、その両親も戦後教育を受けているのではっきりと答えられず、子供はより絶望してゆくのでしよう。それがこの500人以上の子供が1年間に亡くなっているという根本原因なのだと吉野氏は言います。極めて核心を突いた指摘です。これは日本独特の問題と言ってもいいくらいに、他の国では例を見ない現象です。

生きる目的と生き甲斐そして家族愛の大切さ

そのような現実の中で私達が成すべきは、子供にまず生き甲斐を見つけれられるようにしてあげることではないでしょうか。生き甲斐とは、自分が打ち込むことのできる何かであり、十人十色です。例えばある子どもは足が速いとか、勉強ができるとか、サッカーが得意とか、絵を描くのが上手いとか何でも良いのです。自分にはこういう取り柄・特技がある。これをするのが好きでしょうがないでも良いでしょう。そういった生き甲斐を持つこと、そしてそれを伸ばしてあげることが大切です。

さらに根本的な解決法は、私たちが生きる目的を認識することです。それでは、我々が生きる目的とは何なのか？それは、日々自らの人格を磨きながら、精神の年齢を上げること。そして綿々と続く過去の人々の功業や人徳のお陰で我々が今ここにいることに、謙虚に感謝すること。そして同じように、自身も徳を積んで子孫に伝えてゆくのだと意識することが大切なのではないのでしょうか。思い起こせば、郷里の我が家にも神棚と仏壇があり、母は毎日手を合わせていました。その結果私自身、生活の中でご先祖様はつながっているんだということに自然に意識して育ちました。縦の時間軸の中で、自分の立ち位置を見つめることが出来ていたと思います。そういつたつながり意識が分断され、悪い意味での個人主義の蔓延により、日本人の人間力は著しく低下してしまい、こういう問題を生んでしまっているのではないかと思うのです。

戦後は個の尊重と物質的・経済的豊かさが求められ、また過度の競争原理が強調され続けたため、社会の根幹ともいえる家族を大切に作る精神がないがしろにされ、その結果として、家族の絆とか、家庭の愛といった世界も希薄になってしまいました。

欧州で長く生活することを通して私が強く感じるのは、愛情は言葉や態度で表現しなければ伝わりません。日本社会では、その表現があまりにも足りないと思うのです。親は子供を欠点も含めて、あるがままに認め、信じ、思いやるのが大切ですから。そしてあるがままの我が子が抱擁して、愛を言葉で表現してあげることが何よりも大切だと思えます。

◆ご意見・ご質問は青砥まで。Gen.Aoto@toyota.ch



STADT, BERG ODER INSEL?
私のイチオシ、シェアします!

Gotthard峠

阿部公一

(JCZ会員ご家族からの寄稿)

島国の日本は陸上交通(道路+鉄道)ネットワークが国内で完結している。一方、スイスはヨーロッパのほぼ中央に位置していて、その交通ネットワークは周辺国ばかりかヨーロッパ全域に繋がっている。

私は長く日本の高速道路計画・建設に携わっていて、かねてよりヨーロッパの山岳高速道路を走ってみたいと祈念していたところ、コロナ禍が過ぎた2023年6月、ついにその機会を得た。

まず家内と一緒にチューリッヒに住む娘夫婦を訪ね、レンタカーを借り、家族4人でルガーノ経由のミラノを目指した。

アウトバーンA2を走って中央アルプスを越えるには、Gotthard峠を通過する。この峠路こそ、ドイツから北イタリアに出る最短ルートで、13世紀初頭に道路が開削されて以来、幾たびも改築が繰り返されてきた。1980年には延長17KmものGotthardトンネルが完成し、ついにGotthard峠の真下を高速道路で走り抜けることができる。

峠の頂上にある博物館、Gotthard Nationalmuseumを見学しようと、あえてGöschenenインターでA2を降り、国道2号線の峠道を走って念願の地に立った。“Gotthard”この峠名は日本の高速道路技術者にとって特別の響きをもっている。



※Gotthard Nationalmuseum



※Gotthard峠頂上からの眺め

排気ガスを出す自動車が通行する道路トンネルは内部の換気が必要で、長大トンネルの建設・管理には特別な技術が必要だ。日本最長の山岳道路トンネルである関越トンネル(延長約11Km、1985年開通)を建設した当時から、Gotthardこそ世界最長の道路トンネルであって、トンネル技術の“聖地”ともいえる。

Gotthard Nationalmuseumは、峠を越えた道路・鉄道の歴史とその建設技術を、巨大なジオラマや模型・実物で紹介している。最上階奥の巨大スクリーンの映像は圧巻だ。博物館に立ち寄ったら見逃したくない。

ここで少し、技術者視点からGotthardトンネルのことをご説明しよう。特定箇所から排気ガスを排出する道路トンネルは、自然環境保護にも特別な留意が求められている。スイス連邦憲法84条(アルプス越えの通過交通、1994年制定)の第1項には、「連邦は、通過交通による悪影響からアルプス地域を保護しなければならない」とあり、同第2項には「国境から国境へのアルプス越えの貨物輸送は、鉄道によって行われるものとする」と定められている。

1882年に完成したGotthard鉄道トンネルは当時、峠の北側の麓Göschenenと南側麓のAirolo間に、車を鉄道車両に乗せるカートレインが運行されていた。また2016年にはGotthardベーストンネルが完成し、コンテナ輸送のほか、スイスを跨ぐ超長距離間で貨物トラックを対象に

カートレインが運行されている。日本の貨物輸送にも参考になるダイナミックなモデルシフトだ。

現在乗用車が多く利用するA2のトンネルは1チューブ(往復2車線)であって、トンネル内で渋滞が生じないように、トンネル入り口前に信号機が設置されていて流入交通量を制御している。そのため、交通量の多い時間帯には信号機を頭に長い渋滞が生じている。現在工事中のトンネル増設に期待する向きもあるが、そう簡単ではなさそうだ。憲法84条第3項には、「アルプス地方の通過道路容量は増加してはならない」ともあり、トンネルが2チューブになっても、合計往復4車線に増加するわけではないという。

この家族旅行中、Gotthardトンネルの増設工事を見学する機会も得た。大規模な建設プロジェクト工事だけに、自然環境に細心の注意を払っている様子。チューリッヒへの帰路は鉄道を利用し、Gotthardベーストンネルを通り抜けてきた。

この家族旅行で、Gotthard峠に挑んだ技術者達の足跡に触れることができた。峠の頂上の博物館だけでなく、チューリッヒとミラノを結ぶアルプス横断路群全体が、交通路の社会的・技術的変遷をそのまま実体験できる「交通博物館」の様相を呈している。今度はMont BlancトンネルやSimplon峠、Brenner峠に会いに、また娘夫婦が住むスイスに出かけたい。

大使館からのお知らせ

相続登記の義務化について

令和6年度4月1日から法改正により日本国内において、相続登記の申請が義務化されます。本措置は、日本国外に居住されている方も対象となりますので、ご注意ください。

※法務省ウェブサイト→

相続登記の申請は、不動産を管轄する日本国内の法務局に対し、書面(窓口・郵送)やオンラインで行います(在外公館等では申請できません)。

※相続登記の義務化についてのパンフレットはこちら

詳細は大使館HPにてご確認ください。



GlobAS Relocations Europe GmbH

スイスからのお引越しはグローバルリロケーション ミュンヘン支店にお任せを! 創業20年以上、8名の経験豊富な日本人スタッフによるお引越しサービス。ビデオ下見からの見積り作成(無料)が可能となりますのでまずはお気軽にご連絡ください!



HP: <http://www.globas-relo.com>

Email: zurich@globas-relo.com

Tel: +49 (0) 89-189-386-21 (日本語直通) 担当: 三嶋

はて、この連載はもうどのくらい続いているのだろう、と過去の原稿を探してみたところ、開始は2021年の1月号だったことが判明。ちょうどスイスドイツ語を習い始めて半年という頃だったらしく、全くわからなかったことが少しだけわかるようになった喜びが行間から飛び出してくるようで、我ながら微笑ましい初回原稿だ。

それから2年半あまり。件のスイスドイツ語のレッスンは最初に配られた教科書が最後まで行ったことをもって、もう随分前に終了しており、私のスイスドイツ語理解力は、大変残念ながらその時点からあまり進化していない。そもそも「わざわざ習う」という仕方では、スイスドイツ語という暗闇に近づけなかった自分の不器用ぶりもなんだか恨めしく情けない。周りを見渡せば「職場や家庭で触れているうちにいつのまにかわかるようになっていた」という人がたくさんいるからだ。

そんな職場や家庭というスイスドイツ語環境を持たない私ですが、唯一、それでもかろうじてこの言葉に触れられる貴重な機会、それが地元の合唱団だった。

「だった」と過去形で書いたのは、昨日行われたコンサートを最後に、この合唱団が解散、あるいは他の合唱団との合併でかろうじて救済、という成り行きになってしまったから。

ひょんなきっかけから入団したが、最初は話しかけてくれる人としておらず、ドイツ語歌詞を音符に綺麗にのせていくことも合唱初心者の私にはとても難しく、決して楽なスタートではなかった。しかし練習の回を重ね、コンサートで共に歌い、団員の死や病、赤ちゃんの誕生、そしてコロナ時代のトンネルをも共にくぐり抜けたこの6年間は、普段、おとなしくて無愛想な仲間たちが休憩時間に互いにスイスドイツ語でおしゃべりに興ずる、打ち解けた声の意味が、徐々にわかるようになった6年間でもあった。

社交的とは決していえないスイスの人たちに、6年かけてようやく1ミリくらい近づいた……そんな感慨と共に歌い終えた最後のコンサート。果てしない溝をわずかに1ミリ埋めることにかかるとの「進歩」があるのかわからないけれど、合唱体験以前

Hoi zäme

ホイツァメ

言葉に寄り添う居場所探し

13

一つのチャプターの終わり

長坂 道子

エッセイスト@スイスドイツ語勉強中

の自分に戻りたいかと問われれば、やはり即座にノーと答えるだろう。

庭師のBさんと小学校教師のMさんはその間に定年を迎え、往時には9人いた男声5人に減り、赤ちゃんが5人生まれ、指揮者が替わり、いったん辞めた夫婦団員が舞い戻った。日本人の新メンバーも2人加わった。そうして迎えた最後のコンサートの演目は「ピアノスアイレスのミサ」。キリスト教の典礼文をタンゴの楽曲に乗せて歌うアルゼンチンの作曲家、バルメリの名曲だ。

楽器演奏でジョインしてくれたのは、1年の半分をキューバで暮らしているという

イケイケなベーシストのお姉さんと、教会よりもピアノスアイレスの酒場の方がしっくりきそうなアコーディオンのお兄さん。歌詞はラテン語。冒頭のKyrieleは、ドイツ語式にキュリエではなく、キリエと読むように、という指示が練習初日に入る。早いテンポで舌もつれそうなEt iterum venturus est... は エテテルムヴェントゥルセスト... とフランス語のリエゾンを彷彿とさせる数珠つなぎ式に発音するのだけれど、これはスイスドイツ語にもちょっと通じるところがある。みなさんお馴染み、guetenaabig。ドイツ語の Guten Abend ではさほど聞こえない真ん中の「n」がスイスドイツ語では後続の「a」とべったりくっついてはっきりとグエテナビックとなる、あの感じ。単独子音というものが基本的に存在しない日本語の話者は、歌詞の中のこんな小さな石にも、油断しているとうっかりつまづいてしまうのである。

そんなこんなな気づきや観察の機会を山ほど与えてくれた合唱団は、スイスドイツ語レッスンとの二人三脚で、孤独と疎外感にくじける私を随分と助けてくれたものだった。その顛末は拙著『アルプスでこぼこ合唱団』でもつまびらかにしたところ。よろしかったらどうぞお手にとってみてくださいね。

※ ホイツァメ/Hoi zäme Hallo,zusammenは「みなさん、こんにちは」という意味のスイスドイツ語

コラム「ホイツァメ」を寄稿して下さっている長坂道子さんが翻訳した文芸書が出版されました！



「ジャコブ、ジャコブ」ヴァレリー・ゼナッティ (著), 長坂道子 (翻訳)

フランス支配下のアルジェリアでつましく生きてきたジャコブと家族。ある日、ナチスから「祖国」を解放する戦いに、意味もわからぬまま動員された。兵士になると人間の身体や心はどうなるか？ その家族は？ 心の動きを瑞々しく映し出す独特の文体で、人間と戦争のリアルを描いて大反響を呼んだ現代フランス文学の傑作！

ご希望の方には著者から直接購入(代金17CHF+送料)が可能です。mjnagasaka@gmail.com 長坂までご連絡ください。



Amazonのリンクはこちら

BULLETIN BOARD

【ピアノレッスン】

お子さまから大人の方まで幅広くレッスンしています。
グランドピアノと一緒に楽しみましょう♪
Piano : 住村奈緒
Profile : パリ国立高等音楽院卒業、チューリッヒ芸術大学修士ソリスト課程在籍
場所 : チューリッヒ芸術大学
レッスン : 30min 50CHF / 45min 65CHF / 60min 80CHF
Mail : nao23smmr@gmail.com
<住村>



【津軽三味線ワークショップ】

講師: 深田勇馬 (津軽三味線青森世界大会優勝者)
11月11~14日 10-12時、初心者ワークショップ (貸し三味線あり) 時間帯は応相談
場所: Zürich Affoltern
詳細問い合わせ:
yuma.shamisen@gmail.com <酒井>

【好評につき再演決定】

『日本の歌(童謡&武満徹)&「オペラ座の怪人」より』
ゴレイ由美(ソプラノ)、竹下数雄(テノール)、岡田直子(ピアノ)、
入場無料、Kollekte
10月8日(日) 14:00~15:00 Zunfthaus zur Waag, Münsterhof 8, 8001 Zürich
<竹下>



V&A
KIMONO
Kyoto to Catwalk
8/Sep/23 - 7/Jan/24
museumrietberg

関係者の中では長い間、心待ちにされていたというKIMONO-Kyoto to Catwalk展がようやく開催されるということで、オープニングの9月7日、リートベルク美術館へ下見に行きに行ってきました。ヴィクトリア&アルバート博物館でAnna JacksonとJosephine Routによって企画された当展は、1600年代の着物からポップな物までが外国人女性の観点から一同に集められ「ワオ！ソー、キュート！」と言いながら展示したんじゃないかなあ～なんて微笑ましく思えるような作りになっています。その世界に入り込んでしまっ、時間が過ぎるのをすっかり忘れてしまいました！3分の1も見れないまま帰る時間になってしまったので、また出直さないと。皆様におかれましては、たっぷり時間を取って訪問される事をお勧めします！当展に関する詳細はこちらのQRコードからお読み取りください。



Wehrenbachを見下ろせる ベスト紅葉スポット

スイスの澄んだ空気の中で、見事に染まってく紅葉は燃える様に美しい！でも、いきなり寒くなると、茶褐色が目立つちゃったり、落葉しちゃうたり、と多忙な私達を待ってくれません。だから、紅葉を愛でる大々的なハイキングもいけれど、隙間時間に紅葉セルフィーを撮っておくと、後悔しません。そこで私のお気に入り紅葉写真スポットを教えちゃいます！右の写真が一年前の紅葉です。白黒写真だから、その色の美しさは行ってからのお楽しみ！



行き方

徒歩の場合

最寄駅Balgrist, ترام11, S18-Forchbahn, バスNo.77他。道路を渡ってBalgristwegを下っていき、右の森に入ります。そこから徒歩15分ほどで、木の欄干から下を流れる川と一緒に紅葉が一望できるスポットに到着。ここで「はい、チーズ！」

車の場合

ひとつ街寄りの停留所、Forch通りにあるBurgwiesのMirgosなどの駐車場に停めて、急な坂道を上ってすぐ右折すると森の入り口へ到着。ここから5分ほどすると、Balgristwegが右に見えますが、そのまま森の中に入って歩くと左記と同じスポットに到着。

Grüezi mitenand! 今月のスイスドイツ語講座

10月末といえば、ハロウィーンですね！この時期、町のいたる所でカボチャが見かけられますが、おもしろい仮装をしてみるのも楽しいですね。そこで今回は、ハロウィンにちなんだ スイスドイツ語をご紹介します。今年は何か、仮装してみようかなあ…。

Als was verchleidisch dich a Halloween?

ハロウィーンでどんな仮装する？
アルス ヴァス フェル(フ) ライディシュ
ディッヒ ア ハロウィーン？

Ich gahn als Chürbis

私はカボチャになる！
イッヒ ガーン アルス キュルビス
え、カボチャの仮装ってどうするの～？！



映画上映会

スイス・日本協会フィルムマチネ主催
上映作品「生きる」1952年

黒澤明監督、志村喬主演、143分、独語字幕付。2022年にカズオ・イシグロ脚本、ビル・ナイ主演でリメイクされて話題となった映画の原作で不朽の名作。
【日時】10月29日(日)11:00 (開場10:45)
【会場】 Kino Filmpodium
【入場料】 無料 (コレクテ)



上映作品「みとりし」2019年

白羽弥仁監督、榎木孝明出演、110分、英語字幕付。どのように家族を送りたいか、自分が送られたいかを考えさせてくれる映画。誰もが必ず迎える死。それなのに避けられがちな話題。この映画をきっかけに皆さまがご家族や身近な方達と、人生の大事なテーマについて話し合う機会が持てますように。
【日時】11月5日(日)14:00 (開場13:30)
【会場】 Fronwaldstrasse 94, Zürich
【入場】 satomid@gmail.com 要予約 (コレクテ)
日本看取り士会/看取り士・ギンジック恭子 & デリニエ里美



日本航空
世界最高のサービスで
お迎えいたします。



チューリッヒからはパリ・ロンドン・
フランクフルト・ヘルシンキ経由にて
JALをご利用できます。
ぜひJALで快適な空の旅を！



APEX「WORLD CLASS」
2年連続受賞



2018年から
「5スター」に認定



ベスト・エコノミークラスを
6期連続受賞

詳細・ご予約は www.jal.co.jp/ch/ JALヨーロッパ予約センター 0844-888-777 (スイス国内・日本語専用ライン)



JAPAN AIRLINES



ひとつの響きから

パウル・クレーという画家と長年付き合っていると、こちらが望むと望まないにもかかわらずメディア横断的な芸術活動に召喚されることがある。例えば、2018年の「美のプリズム」年末号でご紹介した『日々はひとつの響き ヴァルザー＝クレー詩画集』という本への反響が思わぬ方向へと広がって、編者であるわたしの手を離れ、さらなる創造が今生まれようとしている。

スイス人作家ローベルト・ヴァルザーの専門家である若林恵さんがヴァルザーの詩から42篇を訳し、その詩一編ずつにクレーの絵を組み合わせた詩画集は、グラフィック・デザイナー村井一美さんによる細やかな装丁によって「美しい贈物」の姿として世に差し出された。だが、この本が生まれた経緯には重苦しい歴史が関係する。2011年3月に発生した東日本大震災である。人間の想定を凌駕した自然災害と原発事故という人災に対して何ができるのか、当時、スイス在住の日本人の多くは自問し、被災地と被災者に対して何か行動を起こさなくてはと心が落ち着かなかった。音楽という、聴くものの心に直接訴えかける手段を持たない造形関係の芸術家たちの悩みは深かった。自分たちには、果たして何ができるのだろうかかと。プロダクト・デザイナーの山本まささんが発起人となり、スイス在住の造形芸術家たちに呼びかけて「チャリティー・ボックス・プロジェクト」をスタートさせた。各自が創意を凝らして制作した募金箱（アート作品）をチャリティー会場に並べ、来場者に気に入った箱を選んでもらい、その箱に募金を入れていただくという仕組みだ。作品を作れないわたしは、展示会をオーガナイズする側に回った。1年ほど場所を点々としながら募金活動を行い、震災1年後の節目として、2012年3月、被災者を追悼するチャリティー・コンサートをベルンのフランス教会で催した。若林さんがヴァルザーの詩を選んで翻訳、朗読し、その一篇一篇にわたしがクレーの絵を添えて会場に映写した。当時は、朗読会のために選んだ詩と絵が一冊の本にまとまるなどは露にも思わず、傷つき病んだあなた（と同時に震災後に募金活動に明け暮れたわたしたち）を想い、詩と絵が何がしかの慰めになってくれればと祈るような気持ちでチャリティー・コンサートに参加した。つまり、回復への祈りと切望、これが詩画集の原点にある。

さて、2018年に出版された詩画集は文学と美術の領域を横断し、音楽、そして映像へと変容を遂げようとしている。詩画集に感銘を受けてくださったギターリストの日渡奈那さんは（実は、彼女も2012年のチャリティー・コンサートに奏者として参加していたのだが）、これを彼女の仲間であるヴァイオリニストの笠井友紀さん、ダンサーの上村なおかさんに贈ってくれた。詩と絵からインスピレーションを受けた彼女たちは、まだ名づけようのないその感情を表現するために音に変換させる必要があった。行動力の塊である日渡さんは、彼女の恩師である作曲家のバルツ・トゥルンピーさんに連絡をとり、彼女たちが選んだ4つの詩をもとにギターとヴァイオリンのための4つのデュオ曲の作曲を

依頼した。それらの詩は、まるで春夏秋冬の使者のように、それぞれの季節を謳っている。そのうちの冬をご紹介します。

深い冬

窓ガラスに あの
かぎりなく優しく繊細な
花が刻まれて、大粒の涙のように
霧の庭から出た黄色い月がかかっている。

それは庭、世界、そこでは
今 愉快はすべて死にたえ
音と空はついでた。
窓の花は凝固した感覚。

たくさんの白い屋根に向かって、
おなじく白い野原に向かって、
月は涙を落とす、部屋の中にも、
愚か者がいても 賢者がいても。

（若林恵訳）



パウル・クレー《冬の太陽》1938年
ローゼンガルト・コレクション美術館、ルツェルン

若林さんの解説を引用させていただくと、「窓ガラスの凍りついた水滴が作り出す氷の模様と背景の雪の寒々しい風景に、月の黄色だけが色味と温度を与える。ここでは月は痛い傷ではなく温かい涙」。この詩に添えたクレーの絵は、ローゼンガルト・コレクション美術館所蔵の《冬の太陽》（1938年）である。「温かい涙」である月に誘われて、この作品をわたしは選んだ。クレーの絵では、大地に深々と積もる雪に樹々や道が青い印をつけている。冬の太陽が薄紫に淡く輝き、四方に照り返し薄緑と薄橙の微光が放たれる。積雪に微光が静かに響き、温かさを感じさせる。読者のみなさんには、是非、ローゼンガルト・コレクション美術館に足を運んでオリジナルをご覧ください（2022年の「美のプリズム」11月号を参照）。クレーの絵は繊細に作り込まれており、詩句を添えると淡い輝きがさらに複雑さを増すように思える。

トゥルンピーさんは、わたしたちの想いをどのような音にしてくださったのだろうか。先日、日渡さんと笠井さんが、トゥルンピーさん立ち合いのもと、4つの曲をバーゼル音楽院の大ホールで録音してくださった。まだ音源は聴いていない。晩秋には録音編集が終わって、完成作が聴けるという。この音に映像をつけて、さらにデュオ曲のもとになったヴァルザーの詩の朗読を映像にかぶせるというプロジェクトも同時に進行している。その詳細については、来年ご報告させていただくことにしよう。若林さんとわたしが学術レベルで感じていたヴァルザーとクレーの芸術理念の親和性と共振が、さまざまなメディアを超えて、さまざまなアーティストを巻き込んで、渦となって展開していく。わたしたちの原点からどこまで地平が広がっていくのか見守っていきたい。アートは何のためにあるのか。人を、心を動かすためにある。

柿沼 万里江（パウル・クレー・センター研究員）
Zentrum Paul Klee, Monument im Fruchtländ 3, 3000 Bern

10月企画

10月イベント予告 親睦会 @ Ninja Noodle



日本人経営のラーメン屋で日頃の仕事の疲れを癒しませんか？
ビュッフェ形式で様々な前菜を頂いた後に、小さめのラーメンとデザートも出ます。ラーメンは醤油ラーメン・塩ラーメン・味噌ラーメン・坦々麺・豚骨ラーメンのうちの一つを選んで頂きます。ヴェジタリアン可。日本料理を美味しく頂きながら話を咲かせましょう。興味がある方は10月13日までに石村か、高木までご連絡下さい。(定員15名)

日時：10月21日(土) 19:00～22:00 予定
場所：Molkereistrasse 3, 8645 Jona SG
Jona駅から徒歩3分(Zurich-HBから電車で約35分)
参加費：40フラン
(前菜、ラーメン、デザート込み、飲み物代別)
サイト：www.ninjanoodle1010.com

10月のアフタヌーンカフェ

10月の第2木曜日はチューリッヒでは秋休み真ただ中ですね。お出かけの方も多いかもかもしれませんが、いつものようにJelmoliのカフェでおしゃべりしましょう。

日時：10月12日(木)
14:00～16:00

場所：Jelmoli 3 F レストラン
申込：JCZホームページのイベント申込フォームより、またはメールにてお申し込みください。
kikaku@japanswiss.ch

日常ドイツ語サポートサービス

日頃ドイツ語が分からなくて困っていることはありませんか？ JCZではそういった方々のサポートを行なっています。ご利用になりたい方は、いつでもメールでご相談ください。
申込先：JCZ事務局
メール：jcz@japanswiss.ch
サポートの内容にもよりますが、10フラン程度を寄付という形でお願いしています。

公演のお知らせ

糸操り人形「一糸座」



江戸時代に遡る伝統ある糸操り人形劇。日本から一糸座がチューリッヒにやってきます。
日時：11月17日(金) 13:00
場所：Theater am Hechtplatz
Hechtplatz 7, 8001 Zürich
入場料：50フラン
チケット購入：電話(044 796 4444)、またはサイト内にあるイベントカレンダーからISSHI-ZA

apanisches-Marionetten-theaterでご覧ください。www.schweiz-japan.ch

Oktoberfest Züri Wiesn

～10月14日まで
テント：火～土曜 17:00～23:00
ビアガーデン：毎日11:00～23:30
会場：SBB Zurich HB Haupthalle
https://zueri-wiesn.ch

第19回チューリッヒ映画祭

9月28日～10月8日
チューリッヒで開催される大映画祭が今年も開催。詳しくはWebサイトをご覧ください。https://zff.com

スイス国立博物館

10月3日(火) 18:00～20:00
History Talks 『Wie viel Kultur steckt in der Sprache? : 言語にはどのくらい文化が隠れているか』
10月5日(木) 17:30～18:00
『Einfach Zürich - Zürcher Sportgeschichte (スイスのスポーツ史)』 www.landmuseum.ch

その他、展示・催し物の情報や来館案内、名品ギャラリーなどはサイトにてwww.landmuseum.ch

Cirque du Soleil

カナダ・ケベックで誕生したエンターテインメント集団、シルク・ドゥ・ソレイユがHallenstadionに集結します！
10月11～15日 平日19:00～、土曜15:30～、19:30～
日曜13:00～、17:00～
www.musical.ch/de/ovo

Whisky & Music Tasting

ケルト音楽ライブ演奏を鑑賞しながらウイスキーを試飲して、こだわりやその奥深さを体験。
10月5日(木)19:00～22:00
Volkshaus Zürich
www.whiskyandmusic.com

EVENTS & FESTIVALS

チューリッヒ近郊お出かけ情報

Kunsthhaus

Pipilotti Rist ライトショー

10月26日(木) 18:30～19:30
ビデオ・アーティスト、リスト氏によるライトショー。夕暮れが訪れると同時に、ハイム広場に触覚的な光が放たれます。
www.kunsthhaus.ch

Kunst 23 Zürich

10月26日～28日 11:00～20:00
10月29日 12:00～19:00
Halle 550 Birchstrasse 150
8050 Zürich
www.kunstzuerich.ch

Tonhalle-Orchester Zürich

10月4日(水)
パーヴォ・ヤルヴィ(指揮)、ブルース・リウ(ピアノ)
トーンハレ管訪日演目と同じ！
10月23日(月)
山田和樹(指揮)、バーミンガム市交響楽団、ファジル・サイ(ピアノ)
日本ツアーも好評だった山田和樹の新しい顔が見られる必聴演目！

Opernhaus Zürich

ブッチーニ《つばめ》
10月1・8・13・18・21・28日
www.opernhaus.ch



japanswiss.ch

こちらのQRコードをお読み取りいただき、当会のHP「最新ニュース」の「お出かけ情報」をご参照ください。

ベルン日本人会様より、以下のようなお知らせを頂きました。
ご興味のある方は、直接お問い合わせ下さい！

ベルン日本人会からのお知らせ

次回会報に掲載する皆様からの原稿やイベントのお知らせ、広告を募集しています。

締め切り：10月25日

発送予定：11月下旬
～12月上旬

また、メール広告は会報とは関係なく随時募集しております。ご不明な点はお気軽にお問合せください。どうぞよろしくお願いたします。
ベルン日本人会 役員一同

ベルン日本人会

Bern Nipponjin-kai

E-mail: nipponjinkai@gmail.com

私書箱: Bern Nipponjin-kai,
3000 Bern

銀行口座: PostFinance Bern
Nipponjin-kai 3000 Bern

Nr. 30-468246-5

IBAN Nr. CH44 0900

0000 3046 8246 5

Facebook: BernNipponjinkai

Instagram: bern_nipponjinkai



KETTE

Vol.171

岡本 和孝さん (デューブンドルフ在住)

お仕事は？

昨年より日立製作所から日立エナジー本社があるエルリコン(Oerlikon)に日立ヨーロッパ社チューリッヒ支店長として赴任し、研究開発(イノベーション)を推進しています。日立と言えば総合電機メーカー、あるいは家電製品を想像されるかと思いますが、ここ10年来、社会インフラや産業機器とIT(情報技術)の融合による社会イノベーション事業をグローバルに展開していく企業へと舵を切ってきました。「デジタル」「グリーン」「イノベーション」を成長の原動力と位置づけ、環境(グリーン)の先進地域である欧州では、日立エナジー社のエネルギーシステム、日立レール社のモビリティシステムを中心に事業を展開しています。

スイスに来るまでの話

1995年の入社以来、一貫して研究開発の視点からイノベーションに携わってきました。大学でMaterials Science & Engineering専攻であったため、当初は新材料開発に没頭し、研究や論文寄稿など、いわゆる博士の仕事が中心でした。歳を重ねるとともに、製品・システムの開発、Management of Technology、経営企画といった経験を積み上げてきました。

アメリカ・ミシガン州に4年ほど駐在した頃は、まだ30代と若く、子供も小さかったため、長期連休には全米の主要都市、国立公園やテーマパークなどへ出かけ、壁に貼った紙の地図にピンが増えていく達成感を味わっていました。

今はすべてデジタルの地図に置き換わっていますが、やっていることは同じ、時代は変わったものです。

チューリッヒは、実は人生初の海外寄港地でした。たまたまスイス航空のチケットが最安であったため、チューリッヒに一泊し、その後はバックパッカーとしてイタリアやドイツを回りました。スカッシュをやったことだけ鮮明に記憶に残っていますが、他に何をしたか、どこに行ったかはさっぱり覚えていません。

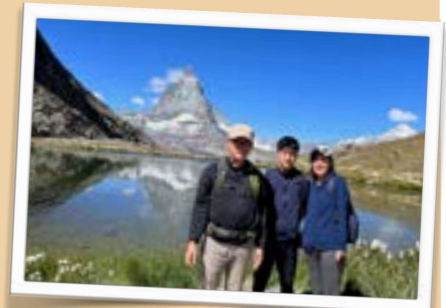
次にスイスに来たのは、1997年の新婚旅行でした。当時の新婚旅行先と言えば、ハワイ、パリ、ローマなど買い物旅行が主流でしたが、何故か妻の思い付きでスイスになりました。チューリッヒ、ルツェルン、ローザンヌにも立ち寄りしましたが、それまで経験のなかったハイキング三昧であり、アルプスの山々や美しい湖、チーズフォンデュに魅了されました。次は定年後にまたゆっくり来ようね、と旅を締めくくったものでした。

スイス生活は如何ですか？

こういってご縁もあってか、今回のスイス赴任は私にとってはめぐり合わせ、ある種の運命的なものであり、すっかり気に入っています。スイス滞在歴の長い方に取ってスイスの嫌なところを聞いてみたところ、何もない、とおっしゃっていましたが、私もまさに同感です。小国が故に、人々がとてもフレンドリーで親切、スイスを誇りに思い社会を大事にしている、私もそういう価値観を共有できればと日々心に留めています。もちろん物価が高い、食材の種類がアジア諸国に比べて少ない、などありますが、その違いを受け入れて、工夫して生活すれば良いのだと思います。

昨年は単身赴任であったため、毎週末に新婚旅行の地を一人で巡りました。当時の写真を片手に、同じ場所に行き、同じアングルで写真を撮って、妻に報告するのです。自然や景色、建物などは何一つ変わらず当時のまま、変わったのは自分だけ、といった具合です。また歩こう会や探心会など日本人会のイベントにも参加し、先輩滞任者

からスイスの生活・観光事情を伝授頂きました。今年からは妻と末子が来てくれましたので、新婚旅行トレースの2巡目、山歩きなど、この夏はスイスを満喫しました。中でも新年会のトンボラで頂いたLocarno Film Festivalは印象深く、レッドカーペットのゴージャスな雰囲気、イタリア映画「La bella estate (The Beautiful Summer)」は最高でした。今後は周辺国にも足を延ばしてみたいと思っています。



ご出身は？

生まれは愛知県岡崎市です。北には豊田市があり、一帯は三河地方と呼ばれています。徳川家康の生誕地、八丁味噌の産地など、文化や産業が古くから発展し、質実剛健な街として知られています。学生時代は京都で過ごしました。海外からの留学生が多く、私にとって異文化コミュニケーションが始まった街でもあります。就職に伴い茨城県日立市に引っ越し、その後の多くの年月、人生の半分以上は茨城に住んだことになります。納豆や干し芋、メロン、さらには海産物など食が大変豊かで、子育てには適地です。

会員の方へのメッセージ

日本人会のイベントにはいつも参加させて頂きありがとうございます。自然に恵まれ、イノベーションランクが1位のこの地にて公私ともども楽しく過ごせたらと思っていますので、家族ともども、どうぞよろしくお願ひいたします。

編集後記

先月号のKETTEにご登場頂いた、シュトゥーダー遥香さんから、会員割引用のお米注文メールアドレスに誤りがあったとご連絡頂きました。正しくは h.studer@kimoto.ch ということです。注文メールが届かない！と思われた方、ご心配おかけしました。割引期間を11月末まで延期して下さるので、再送してみてください。あまりのふくらした美味しさに、「外米」に慣れた我が子達は「お水の量を間違えた？」などと言う始末…。今のうちにしっかり「本物の日本米の味」を教え込まないと！(汗)

今月号は「秋のウォーキング」をテーマにしてみました。皆様のお勧めスポットも是非お寄せ下さい！私も記事を書くために久しぶりに行ったら気持ち良くて、重い腰を上げてジョギングを再開しました。(SN)

広告掲載のご案内

ジャパンクラブチューリッヒでは、会員の方からのお知らせ・広告掲載、フライヤー等の会報同封配送を、有料(一部無料)で随時受け付けております。詳細については編集部までお気軽にお問い合わせください。

伝言板コーナーをご利用ください。

200文字以内のお知らせ・ご案内は無料で掲載いたします。掲載内容責任者のお名前(会員に限る)を入れた原稿を毎月10日までに編集部までメールにてお送りください。

*JCZでは広告・フライヤー・伝言板の記載情報については責任を負いかねます。

JCZ会報誌エーデルワイス
2023年10月号

発行責任者：青砥 玄(会長)

編集：中 東生、阿部 牧子

レイアウト：鎌田 裕子 市居 美帆

編集部専用メールアドレス
edelweiss@japanswiss.ch

JCZ Japan Club Zurich
Office of Honorary Consul

General of Japan

Utoquai 55, 8008 ZH

jcز@japanswiss.ch

www.japanswiss.ch

